

ハイポネックス®ニュース

HYPONeX NEWS 39号

令和元年7月発行 農芸プロダクツチーム

拝啓

皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今号も、弊社製品の様々な事例や推奨管理を情報盛り沢山でお届け致します！

是非ご一読いただきますよう、お願い申し上げます。

敬具

トピックス

- 頁2 ■アジサイの管理におすすめ資材
- 頁3 ■ネクスコートプロ（次世代型コーティング肥料）野菜におすすめ
- 頁4 ■肥料とバイオスティミュラントの併用がさらなる効果を発揮する
- 頁5～7 ■バイオスティミュラント資材のご紹介～その①～③
- 頁8 ■ガーデンシクラメン3寸ポット肥培管理
- 頁9 ■プロミック錠剤オキサミドタイプについて
- 頁9～10 ■シクラメンQ&A（夏場の肥培管理）

今年も実施！大好評の特別セール！

この機会をお見逃しなく♪

サマーキャンペーン

7月22日(月)～9月27日(金)

日頃のご愛顧に感謝し、今年も例年同様のサマーキャンペーンを実施致します！

新製品『ネクスコートプロ』を対象とした特典は必見です！！

セールの詳細につきましては、弊社営業担当、またはお近くの販売店までお問合せください。

チェック!



アジサイの管理におすすめ資材

6月に入りアジサイの出荷もひと段落された頃だと思います。
ポットへの移植も終わり、ほっと一息でしょうか！
今回ご紹介するのは



1：花木用コーティング肥料（環境配慮型）

ネクスコートプロ 16-6-10 6ヵ月タイプ 25 kg

ポット苗の追肥として、鉢土の表面に追肥してください。

2g/ポット当たり施肥（約 12,500 ポット分）

肥料効果は6月中旬 施肥すると7月、8月、9月中旬ころ（約3ヵ月間）持続



成分は 16-6-10+マグネシウム+カルシウム配合、コーティングされているのは約 8 割のバルクブレンドタイプ。コーティング樹脂は植物由来ですので、ガーデンなどに植え付けした後は生分解しますので、安心です。この時期から秋にかけて灌水量が増えたり、大雨が降っても、基本は温度の影響によって溶けだしますので安定的で、過剰に溶けだして水質を汚染することも少ない環境配慮型の肥料です。

2、バイオスティミュラント資材（アビオテックストレス耐性資材）

根張り促進型肥料 ライゾー 1 kg

ポット上げ後の栽培環境は、梅雨に入り、晴れると高温、曇天、雨では低温と温度の乱高下がストレスとなり意外に難しいシーズンです。ストレスがかかっても根張りを強化しておけばポットでの落ち（ロス）軽減に役立ちます。成苗率を上げることにより出荷鉢の生産量が増加し、根張りを良くすることによって株が健全に育ち、夏の高温やストレスに健全なアジサイの生産につながります。

施用量は 10,000 倍（1 万倍）で 50ml 灌液量/ポット当たり（4 回×約 50 万ポット分）

実際は栽培期間中に 2 回をセットにして、水に希釈して施用してください。

目安 6~7 月に 2 回（7~10 日間隔）、8~9 月に 2 回（同間隔）計 4 回

成分はアミノ酸（メチオニンなど 3 種類）58%、リン酸、カリ、ビタミンなどアミノ酸を主体とした資材ですので、根張りの厳しい時期にじっくり効果を発揮します。

（ライゾーは干ばつなどのアビオテックストレスに対して効果を発揮する資材なのです）



性状：粉末

1kg



ネクスコートプロ（次世代型コーティング肥料）野菜におすすめ

ネクスコートプロ 16-6-10 25 kg 夏秋ナス向け

窒素を安定的に補給できるタイプで葉菜類や秋からの果菜類におすすめです。

秋から温度が低くなる季節に向けて窒素を安定的に供給し栄養生長の補助をしっかりと、果菜類ではカリ、カルシウムを補給できしっかりとした収穫につながります。

また、葉菜類での窒素、リン酸、カリの安定供給に利用できます。



ネクスコートプロ 13-5-15 25 kg ネギ向け

カリとカルシウム成分を強化して夏の高温時の栽培や果菜類や葉菜類におすすめです。

春から夏の高温時に特にカリ、カルシウムをしっかりと補給できるタイプ。

5月上旬に施用すると夏の高温を考慮しても12月くらいまでは持続します。



ネクスコートプロ 25 kgは次世代型コーティング肥料

ネクスコートプロのコーティング樹脂は植物由来、最終的には土壌中で生分解して残りません。

また、植物性樹脂の溶け出しは、とても安定しています。また環境に配慮しています。

集中豪雨や夏の急激な高温で、溶け出しが増加して効き過ぎること少ない特性があります。

栽培期間を通して安定的に肥料を供給できますので、良質でロスの少ない収穫につながります。

肥料とバイオスティミュラントの併用がさらなる効果を発揮する

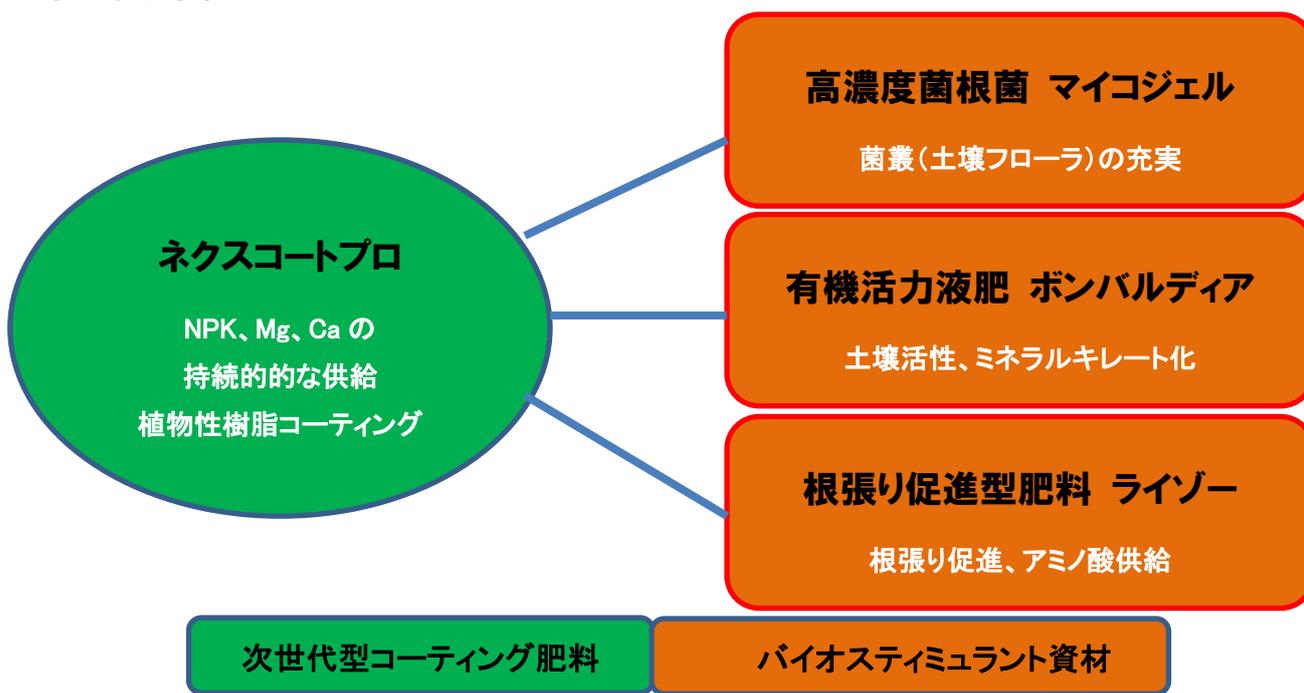
次世代型コーティング肥料×バイオスティミュラント資材を一緒に使う

弊社は、生産者と共に、農業、園芸の安定収量確保、持続的生産、土壌環境保全を目指しております。

近年、化学肥料、有機化成肥料や農薬の多用により生産収量の向上を図ってきましたが、土壌問題、急変する栽培環境の悪化（干ばつ、局地型集中豪雨、大型台風などのアビオティックストレス）に対処するために、化学肥料の有効利用はもちろん、バイオスティミュラント資材の提案を始めました。

バイオスティミュラント資材はアビオティックストレスによる生産ロスを軽減して、安定した収量、良質な生産物を確保することができることを目指します。

ネクスコートプロとバイオスティミュラント資材を一緒に使うことで、さらに品質や生産性向上につながります。



また、フルボ酸、L型-アミノ酸、多糖類、ベタイン、ビタミンを配合した**ボンバルディア**は土壌や配合成分を相乗吸収させる資材として好評をいただいております。

いままでは**ピーターズ**などの化学肥料を鉢花や花壇苗へ提案をしてきましたが、近年の猛暑、突然の乾燥、集中豪雨など劣悪環境がしばしば増えつつあります。そういった中で、ストレスを軽減して植物を円滑に育てるのがボンバルディアの効果としてわかってきました。配合されているベタインの効果は葉や植物体内の浸透圧の調整に関与しています、これにより植物体のしおれを軽減する効果が認められえます。また単純に硝酸態窒素を与えても、猛暑下ではなかなか植物に吸収されません、こういった場合にボンバルディア内のグルタミン酸は直接植物に吸収され養分供給を助けます。

ピーターズ 10 kgに 100ml のボンバルディア添加、この併用がとても効果的だという事です。連続収穫するトマトの農家さんでは、なり疲れが少なく収量が上がっている報告もいただいております。

ピーターズ 10 kgの希釈液に、ボンバルディア 100ml を混合する＝ストレス耐性向上を目指します



*ご使用の際は、一度お試しの上、ご利用ください。



ジェル状高濃度菌根菌資材

マイコジェル

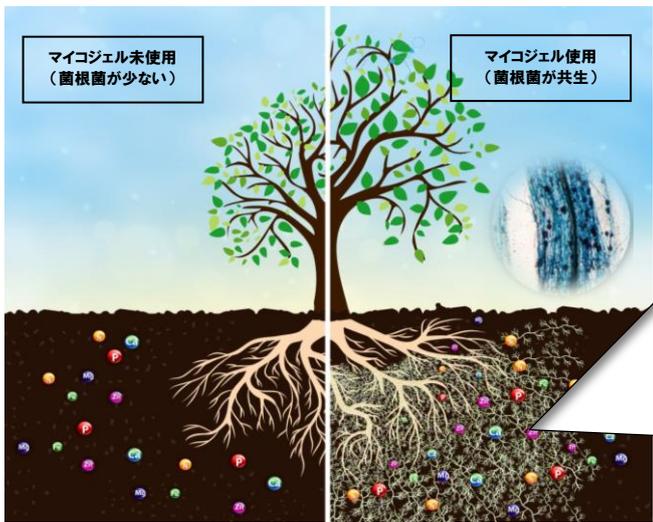
今までに無い菌根菌資材『マイコジェル』をご紹介します！
作業の効率化、品質・収量向上、耐病性に優れた農作物の生産に！



【菌根（菌）とは？】

- 土壤中の水や同化できない栄養素の摂取や根の届かない遠い（深い）場所からの摂取。
- 菌根圏の形成が耐病性を向上。
- 土壌構造改善。
- 1 cm の菌根は 3 m の菌糸に相当。

（イメージ図）



【マイコジェルの特長】

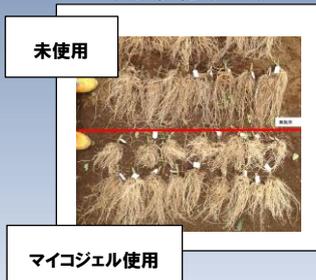
- 粘土や固形物質を含まないため、灌水システム（ドリップチューブなど）で施用可能。
- 試験管培養による生成のため純度が高く、他の微生物を排除し高濃度の繁殖態を含有。
- 共生後のコロニー形成時間の短縮（異なる3つの活性増殖形態）。



【使用上のポイントと色々な効果】

- 施用量は 100ml / 10a (1 反) <例> 10,000 倍希釈液を 1t / 10a (1 反)
※ 施用量を多く、もしくは希釈液を濃くすることで菌根菌が根に共生しやすくなります。
- 施用のタイミングは植え付け後の灌注、もしくは植え付け前のドブ付け処理でもOK。
※ 新しい（若い）根に接触する様に施用することで効果的に根に共生しやすくなります。
- 施用後約 2 週間は水溶性リン酸を多く含む化成肥料、多灌水を控えてください。
※ 菌が定着する約 2 週間後からは肥料、殺虫剤、殺菌剤などが使用できます。

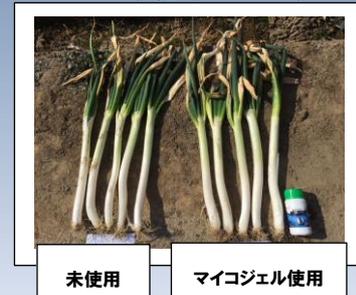
（根質向上）



（収量アップ）



（規格アップ）





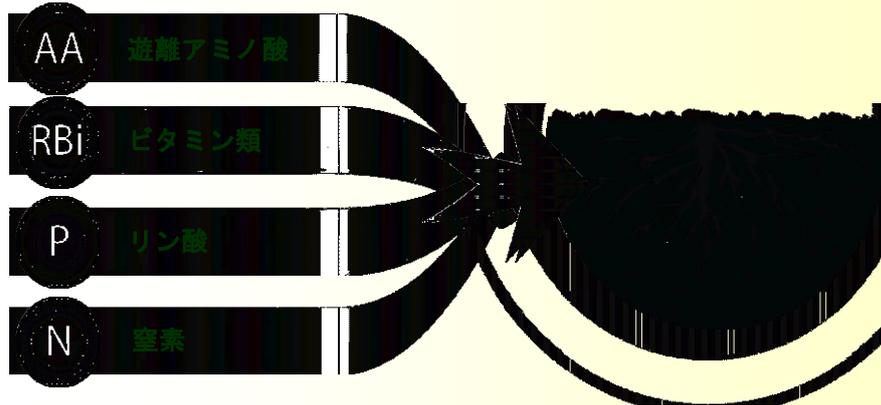
根張り促進型肥料

ライゾー

『ライゾー』は植物由来の天然資材を独自の技術で特殊発酵、乾燥処理を行ったバイオスティミュラント資材です。ここ数年、天候不良、高温障害などで植え替え、植え付け後の活着不良に悩まれている方が多い中、『ライゾー』はその悩みを一発解消！是非ともお試しくださいませ！



『ライゾー』に含有されている各種成分が植物体に吸収されたり、植物体に刺激を与え根張りを促進します。



■ ガーデンシクラメン(愛知県)の事例 (72穴プラグ仮植1週間後と2週間後に“ライゾー”10,000倍土壌灌注:計2回)

(仮植3週間後の様子)

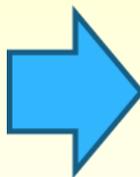
(更に約50日後の様子)

【ライゾー処理区】

【無処理区】

【ライゾー処理区】

【無処理区】



→根量、根質、根域に大きな差。

『ライゾー』処理区は根鉢がきれいに維持。

→株の充実、葉枚数など成長に大きな差。

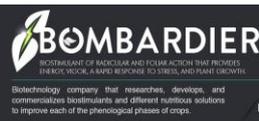
【使用上のポイントと色々な効果】

- 施用量は 100ml/10a(1反) <例>10,000倍希釈液を1t/10a(1反)
- 施用のタイミングは植え付け・植え替え 3~7日後に灌注。その後 7~10日後に再度灌注。合計で 2~3回施用することで根張りを良くし、活着を促進します。
- 植え付け・植え替え後の根張り・活着促進以外にも収穫、切り花の採花途中の成り疲れ期、根傷み時、高温期、降雨期などに施用する根に刺激を与え効果的です。

ハイポネックスのバイオスティミュラント資材 ~その③~

有機活力液肥

ボンバルディア



『ボンバルディア』は植物由来の天然資材を独自の技術で特殊発酵し、植物が吸収しやすいレベルまで堆肥化した有機活力液肥です。特に暑さや寒さ、曇天や雨による日照不足など季節や天候によるストレスや、生育過程による植物体自身の生物的ストレスの解消、土壌改良効果などあらゆる場面でご使用することが出来る有機 JAS 資材登録取得の有機活力液肥です。



アミノ酸

有機物質

窒素

炭水化物

天然生物刺激剤

フルボ酸

『ボンバルディア』にはバクテリア発酵で生成された植物体に吸収されやすいアミノ酸をはじめ、土壌養分等の吸収を促進するフルボ酸が含有されています。

【植物と土壌へのダブル効果】

植物への効果:

- 生長の促進
- 生産性と質の向上
- ストレスに対する抵抗力を高める
- 実の大きさと質の向上
- 根系の状態を改善
- 代謝と酵素の活動を促進
- 細胞分裂の増加

土壌への効果:

- 土壌組織の改良
- 土壌の通気性を向上
- 養分の吸収を高める
- 保水力を高める
- 肥料の必要性を低減する



コマツナ試験(2018年)

ボンバルディアは 500 倍で液肥として追肥に利用。
ボンバルディア施用区は、葉色が良く、生育が早い。
有機 100%の液肥だが、効果が鋭い



有機 JAS 資材登録取得



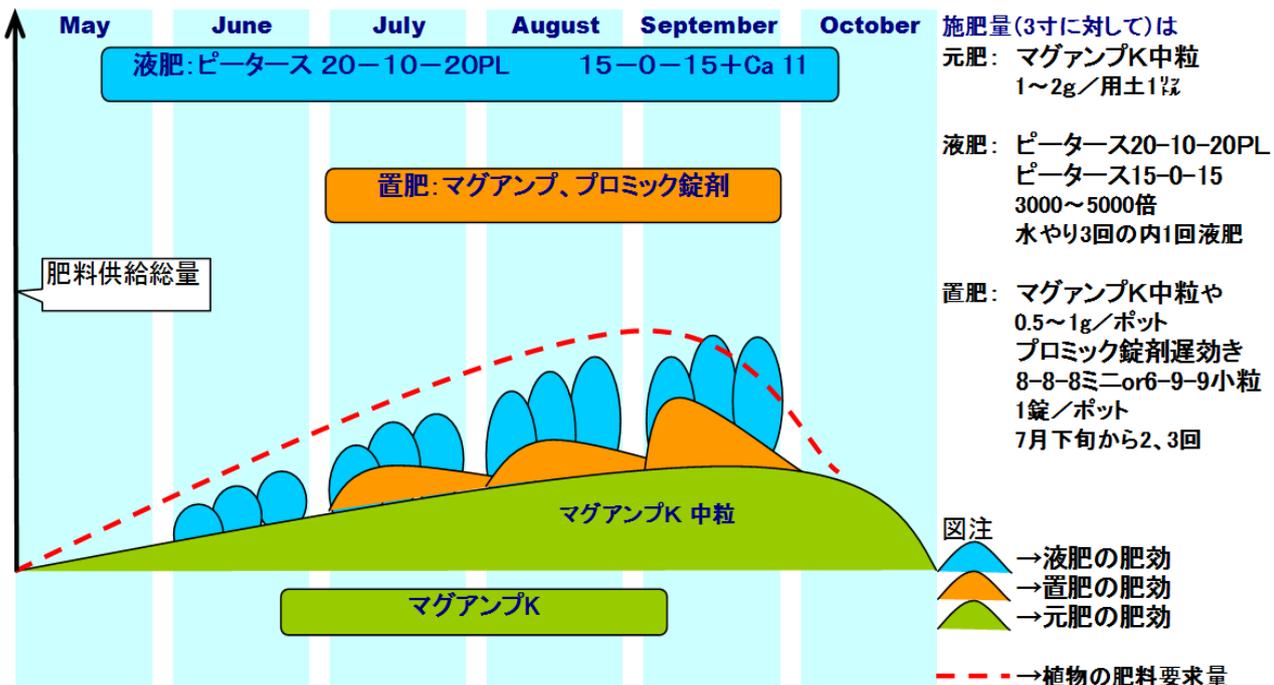
【使用上のポイントと色々な効果】

- 希釈濃度: 300~3,000 倍
- ※ 葉面散布も可能ですが、土壌灌注など根から吸収させる方がより効果的です。
- 濃度を濃くしたり、施用回数を多くする必要はございません。ボンバルディアに含有されている成分が植物体に刺激を与え、生育状況、季節・天候条件等によるストレスを軽減させます。

■ ガーデンシクラメン3寸ポット肥培管理

		肥培管理	
		●液肥	●元肥・追肥
5月	下旬	●灌水のみ 10日-2週間後までは灌水のみ	●元肥 マグアンプK中粒1-1.5g/用土1L
6月	上旬	●液肥開始 ピーターズ20-10-20 P L 5000-4000倍 灌水2回に対し、液肥1回	
	中旬		
	下旬		
7月	上旬	●液肥 ピーターズ20-10-20 P L 5000-4000倍 ピーターズ15-0-15を交互に施用 4000-3000倍 灌水2回に対し、液肥1回	●置肥（1回目） プロミック錠剤オキサミド8-25-8 ミニ *夏場の上根を期待。  またはマグアンプKだと上根が寄っている
	中旬		
	下旬		
8月	上旬	●液肥 *花芽の上りが悪い時 ピーターズ10-30-20 3000-2500倍 約3回	●置肥（2回目） プロミック錠剤オキサミド8-25-8 小粒 *ポリウムが足りない時は プロミック錠剤8-8-8ミニ 1錠
	中旬		
	下旬		
9月	上旬	●液肥 ピーターズ20-10-20 P L 4000-3000倍 ピーターズ15-0-15を交互に施用 3500-2500倍 灌水2回に対し、液肥1回	●置肥（3回目） プロミック錠剤8-8-8小粒 1錠 または、株を抑え気味に行きたい場合は プロミック錠剤オキサミド7-10-15小粒 1錠
	中旬		
	下旬		
10月	上旬	出荷	出荷2週間前にお弁当肥えに
	中旬		
	下旬		

■ ガーデンシクラメン肥培イメージ図



*夏場の肥培管理に細やかな肥培管理が求められる植物ですので、マグアンプを元肥とし、適宜ゆるやかな置肥・液肥の施用が重要となります。

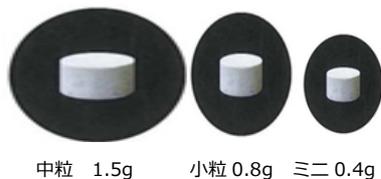
*上記の管理は、シクラメンの株状態を見ながら、適宜足し算で肥料を追加するやり方です。

*特に夏場の肥切れ、盆明け夜温が下がったところの追肥、がポイントとなります。

夜温が下がったところに肥料を抑えすぎると花が小さくなる傾向があります。

*肥培設計は用土組成・環境により変化しますので、目安として一度お試しになってからご使用ください。

プロミック錠剤オキサミドタイプについて



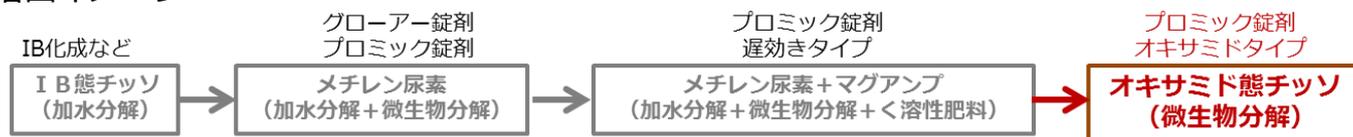
中粒 1.5g 小粒 0.8g ミニ 0.4g

オキサミド??

水に溶解しにくい窒素成分を配合
夏に灌水が多くてもゆっくり溶出
窒素成分は、微生物によってゆっくりと分解
特に根の生育に効果

重量	錠剤サイズ	(1ケース当り)	日本肥料登録保証値						分析値
			窒素	リン酸	カリ	マグネシウム	マンガン	ホウ素	カルシウム
9.3kg	ミニ (約0.4g)	約22,500錠	8	25	8	5	0.1	0.05	9
	小粒 (約0.8g)	約11,400錠							
	中粒 (約1.5g)	約6,000錠	7	10	15	5	0.5	0.2	5
	小粒 (約0.8g)	約11,400錠							
	中粒 (約1.5g)	約6,000錠							

■ 溶出イメージ



シクラメン Q&A (夏場の管理)

(解答に関しましては、生産者により栽培環境がかなり異なるため、必ず、ご試験のうえお試しいただければと思います。肥料濃度は用土により大きく異なりますので、ご確認のうえお使いください)

Q1、5号鉢仕立てのシクラメンを定植する場合、定植後なかなか新根の動きが悪く、活着が悪い場合があります。対応策はありますか？

A1 原因は色々考えられますが、下記のような確認が必要と思われます定植前の仮植の段階で、「根が十分に張っていない」、特に「上根が張っていない」ことが考えら、対策として下記のようなことが必要です。

- ① 鉢サイズが大きくなるため、用土は通気、排水を重視します。
- ② 元肥はリン酸成分の高いマグアンプK(中粒)、マグアンプⅡ(Mサイズ)を1.5~2g/Lを目安に混合します。また、赤土、赤玉土が多く使用される場合は、重焼リンをマグアンプと同量程度混合します。
- ③ 植え付け前に、必ず3~5日前には液肥を苗に与えるようにして、活着促進を促します。使用する肥料はピーターズ20-20-20の40ppm前後を与えます。また、仮植時の根張りが悪い場合は、生育状況を見ながら定植約1ヶ月前にマグアンプK(中粒)を1g程度置肥します。
- ④ 植え付け時に、ウォータースペースを1cm程度にし、広くならないように注意します。土の乾燥を促進します。
- ⑤ 植え付け直後の灌水量が多すぎるため、初回から3~4回の灌水は3/4灌水が目安になります。

次ページへ続く

⑥植え付け直後より底面からの給水は、元肥成分、水の底部集積が進むため、根が鉢の側面に到達するまでは、エキスパンドメタルの上などに置くように心がけます。

⑦植え付け時に活着促進剤等として「ライゾー」根張り促進型肥料の使用をお勧めします。使用方法は植え付け3日後、10日後に10,000倍希釈液を用土に施用します。ここで注意することは、初期に多灌水ですと、効果が出にくくなります。その後、活着を確認後、定植約3~4週間後から根部伸張促進のためピーターズ15-30-15の40ppm前後を施用し、3回程度施用後、ピーターズ20-10-20PLの40~50ppmを3回施用後、カルシウムの補給のためピーターズ15-0-15の40~50ppmを1回施用するローテーション施肥をお勧めいたします。

⑧強光線に注意しましょう。

⑨置肥の目安は、定植1.5~2ヶ月後にマグアンプK(中粒)を1~1.5g置肥します。

Q2 夏場、なかなか芽点が動かず、停止した状態が続いていますが、対策はありますか？

A2 シクラメンは暑さを嫌いますので、梅雨明け1ヶ月程度は生育スピードが遅いため、この間、大切なことは、地上部の生育よりQ1の作業に示しましたように根の生育が今後の生育に大きく影響します。

①定植後1~2ヶ月間は根の生育が大切で、根の生育が良好、特に太い根、分根力と地上部の芽点の動きは良好です。そのためには、表面部分が乾いてきたら、灌水し、常時過湿状態は避けます。

②この時期の、強光線は地温を高くし、根の生育を抑制しますので、11~16時は気温が下がるための寒冷紗で対応します。遮光率が高いと、用土も乾きにくく、葉柄が伸びやすくなるため注意します。

③この間、液肥を施用する場合は、肥料の吸収と光、温度は関係が深いため、強光と高温になる前の遮光も強くしていない、早朝10時前に施肥は完了し、根からの吸収を促進します。

④8月下旬になれば、地上部の芽点を動かし、葉芽の伸張、花芽の充実のため「リング掛け」が必要になり、9月下旬頃まで、2週間間隔での作業をお勧めします。リング掛けをすることにより、水、肥料の根からの吸収が進み、地上部の生育が進みます。この時期に、葉組みをすると奇形花の発生率が高くなるため、葉組みは気温が下がる10月以降がお勧めです。

⑤地上部の生育に伴い、定植1.5~2ヶ月経過すると元肥のチッソ量がやや低下し、与えてきた液肥だけでは不足しますので、マグアンプK(中粒)を1~1.5g置肥します。

⑥液肥はピーターズ20-10-20PLの40~50ppmを3回施用後、カルシウムの補給のためピーターズ15-0-15の40~50ppmを1回施用するローテーション施肥をお勧めいたします。

⑦花芽分化を推進する場合はピーターズ10-30-20の50ppmを3~4回、連続で施用します。